

トラック運送事業における経営理念について・その2

～経営理念の策定方法の概要～

経営理念は会社の憲法であり、従業員などの求心力となるものです。この経営理念が人と人をつなぎ、組織体として大きなベクトルを作り出す源と言ってもよいのです。

今回は「経営理念・その2」として、「経営理念の策定方法」の概要について記してみたいと思います。

■経営理念が全社に浸透しますと、次のような良い点があると言われています。

- ①新しい「物流(輸送)サービス商品」の開発が活発になり、ビジネスチャンスが広がる。
- ②会社成長のための戦略が明確になる。
- ③自社の「コア・コンピタンス(中核領域・事業など)」が理解され、業績向上に結びつく。
- ④会社のベクトルが合い、従業員が動機付けされる。
- ⑤経営者の使命・役割が明確になる。・・・など。

1.経営理念の内容の概要について

「経営理念」には、概ね次のような内容を盛り込む必要があると言われています。

(1) 経営目的を明確にします。

会社の目的は何か、何のために経営するのかを明確にしなければなりません。

順調に業績を伸ばしている会社や、新たに経営理念を策定した会社には、次のような特長があると言われています。

- ①社会に対して何が出来るのかを明確にし、積極的に貢献していきたいと考えている経営姿勢があります。
- ②人間や従業員の幸福を実現しようとする経営姿勢があります。
- ③地球環境に優しい経営をする姿勢があります。
- ④革新や進歩を目指した経営姿勢があります。

(2) 経営方法を明確にします。

経営理念の実現を目指して、経営者は実際に経営をしていくこととなりますが、その方法は様々なアプローチ方法が考えられます。その中で自社に適した方法を明確にする必要があります。

(3) 経営の革新の方向を明確にします。

経営方針、経営目標や経営戦略は、経営環境によって変化していきませんが、経営理念は不変なものとして受け継がれていくことになります。しかし、経営機能の本質的課題は「革新」です。特に、経営環境の変化に対応し、会社の維持・存続・発展を図るためには、経営理念を見直すケースも出てきます。そのようなときは、改革の内容を盛り込んだ経営理念とすることを考える必要があります。

(4) 従業員と経営者が一体感を得られるものとしします。

経営理念は組織の共通の価値観を明らかにし、組織と従業員の一体感を高める効果があります。価値観の共有による一体感は、従業員のモチベーションを高めることとなりますので、従業員と共感できる内容とする必要があります。

(5) やる気を生み出す発火点となるものにします。

経営理念は会社の社会的役割や責任、会社の目的、共通の価値基準などを明確にすることとなります。このため、従業員は「何故この仕事をしているのか」、「何故この仕事が必要なのか」、「この仕事は会社のどの部分に位置付けられるのか」など、自己に与えられている仕事の意味を理解することができます。これにより、社会に対する貢献意欲や自己実現の欲求が、更に明確になり、やる気を生み出す発火点になると言われています。

■経営理念策定(見直しも含めて)のポイントをあげれば、次のような事項が考えられます。

- ①お客様満足度:●お客様の利益に貢献する、お客様を第一とする経営か。
 - 荷主企業などが納得できるサービス(内容・品質)、価格であるか。
- ②効率性:●生産性や利益の追求、計数管理による裏付けがあるか。
- ③成長性:●事業が成長していくためのサービス品質や高度化のレベルはどの程度か。
 - 目標とする地位(事業規模、市場選択など)や蓄積すべき経営資源があるか。
- ④社会性:●自社を取り巻く環境(安全確保、環境保全も含めて)、利害関係者(地域貢献、株主利益など)に対する働きかけがあるか。
- ⑤人間性:●従業員の意欲を沸き立たせて、心をつににするようなヒューマニティ溢れる表現になっているか。
- ⑥先進性:●新しい考え方や技術に興味を持ち、事業経営に積極的に取り入れているか。
- ⑦独自性:●他社には真似のできないもの、物流市場でオンリーワンを主張できるものがあるか。

